

臺灣大學・高麗大學 學術交流協定暨研究生共同發表會



2015年11月6日於韓國首爾高麗大學召開「高麗大學・國立臺灣大學學術交流協定暨研究生共同發表會」，由本校日文系、日本研究中心6位教授、2位學生共8名師生代表出席。為紀念兩校學系、研究中心締結交流協定，在高麗大學日文系主任兼日本研究中心主任徐承元先生，與本校日文系主任范淑文教授、日本研究中心主任徐興慶教授分別簽訂學術交流協定後，舉行研究生共同發表會，由本校教師進行專題演講以及兩校學生的論文發表，成果豐碩。於交流協定簽



▲林立萍副主任

2015年11月6日、韓国ソウルの高麗大学にて、「国立台湾大学・高麗大学校 學術交流協定調印式及び學術大会」が開催され、本校日本語学科・日本研究センターより教員6名、学生2名の計8名が出席した。これは両校の学部間・研究センター間の協定締結を記念して開かれたもので、高麗大の徐承元学科長及びセンター主任と本校日本語文学系范淑文主任お、および本センター徐興慶主任による學術交流協定への調印式の後、本校教員による基調講演ならびに両校学生による論文発表が行われた。



▲徐承元主任 范淑文主任（簽約儀式）



▲徐承元主任 徐興慶主任（簽約儀式）

国立台湾大学・高麗大 学術交流協定調印式及び学術大会

2015.11.06

24

定會上，日本研究中心林立萍副主任致開幕詞表示：「藉由這次兩校締結學術交流協定，可以強化東亞研究者的橫向合作，深化年輕學生的日本研究」。

最後由高麗大學鄭炳浩教授代表閉幕致詞：「本次兩校的交流協定實現了東亞首次非日本的學校與日文系做交換留學協定，我想這能成爲東亞典範之一。今後不僅要積極充實彼此間的實質交流，更要把成果發信至東亞」，爲本次學術交流協定暨研究生共同發表會劃上完美的句點。◆

開会式は両校主任より学部紹介および挨拶から始まり、本センターの林立萍副主任は「今回の学術協定締結によって、東アジアの研究者の横の連携がさらに深められることを切に願う」と喜びの言葉を述べた。

閉会式では高麗大の鄭炳浩教授が「今回の協定によって、東アジア初の対日本以外の交換留学が実現することになり、東アジアにおいて一つのモデルとなるだろう。今後は交流の中身の充実を図りながら、その成果を東アジアへ発信していこう」と呼びかけた。◆

專題演講與學生論文發表詳細如下 基調講演、學生論文發表は以下のとおり

專題演講 / 基調講演：

- 范淑文（台灣大學日本語文學系教授兼系主任）
文学と絵画のクロス—漱石など—
- 林慧君（台灣大學日本語文學系教授）
外来語成分による造語をめぐって



▲范淑文主任



▲林慧君教授

論文發表：

- 村上理奈（台灣大學日本語文學系碩士班）
日本語教科書におけるオノマトペと動詞の共起に関する一考察
- 守時愛里（台灣大學日本語文學系碩士班）
日本語教科書におけるポライトネス表現について—「そうですか」を例に
- 黃琇瑛（高麗大学中日語文學科博士課程）
韓—日—両国の中国認識に関する考察
- 容浩傑（高麗大学中日語文學科博士課程）
米日同盟と中国：中国と日本の対米日同盟認識を中心として